

本朝孝子傳卷三目錄

- | | | | |
|----|---------|----|----------|
| 一 | 上寺村清久 | 二 | 沖津里村次郎清 |
| 三 | 沖村与五郎 | 四 | 德中溝口村五郎清 |
| 五 | 田井村治右衛門 | 六 | 浦田村八久妻 |
| 七 | 上條福村幸九郎 | 八 | 福崎村多玄清 |
| 九 | 浦田村安都 | 十 | 粒江村市郎清 |
| 十一 | 中田村檀玄清妻 | 十一 | 久保村太郎清 |
| 十二 | 出屋村九久 | 十二 | 下仁保村市郎清 |
| 十三 | 月村市久妻 | 十三 | 釣井村七郎主婦 |

昭和十六年一月十一日寄
尼野貴英氏贈

廿七	市場村庄左門	廿八	下村市人
十九	下田村五右衛門	二十	藤原村治左衛門
廿	辰野村九左衛門	廿一	勸村惣左衛門
廿三	後部村猪左衛門妻	廿四	日村彦三郎
廿五	中田村九右衛門	廿六	幸川市場村建左衛門
廿七	西幸川村九左衛門	廿八	尾村源左衛門七
廿九	日村九左衛門	三十	豆田村若左衛門
三十一	山田庄村市苑	三十二	福山村七左衛門妻
三十三	彼中野方村清左衛門	三十四	日國中六条院村若左衛門

本朝孝子傳卷三目錄

一	上寺村清人	二	沖津里村庄次郎左衛門
三	沖村与五郎	四	彼中溝口村五右衛門妻
五	田井村治左衛門	六	浦田村八左衛門
七	上條福村平左衛門足分	八	福崎村多左衛門
九	浦田村富都	十	粒江村市希左衛門子
十一	中田村權左衛門妻	十二	久保村太希左衛門
十三	出屋村九左衛門	十四	下仁保村市希左衛門
十五	日村市人妻	十六	釣井村七左衛門主婦

十六
下市
村市

二十 蓋原村治乞湧

二
勸村題名門

北四
日村產三帛

廿六 幸川市場村建院母

北八
尾村源三
清源七五七

三
豆田村 若右衛門

三 福山村七左衛門妻

三西 日園中六家院村系家門

邑久那と寺村の民清女母より孝を盡しあり清女八歳乃
 時父終るぬえより家を負しき若し九歳より十歳を此間
 神崎村母方の祖あり其方いふ牛ほど飼く居る其後此
 地村の三弟を誘ふる者よは喪つてむるまに來りたり十五のこ
 り終米二苞をたじより三十六歳まで農を事し其後
 乃終米五苞母のりより終るぬ其母の終る來りて其孝を
 みてよりていと懇切なり清女八歳實ある若し何方事
 てし其母のりより叶いと称せらるるをある耐清女里の

殊こと（新あらた）今いまと農家の仕つか（少すく）も母の喪なくさひ足たりさきハ孫ひ孫うく
 園その（山やま）足あ足あ煙えんめどにぬぐうめあも孫ひ孫米まい多くゑて母にわさそ
 けうとくう里しいし清きよ女めが母みはるの篤あつを感かんどさしせよ、般はん
 一ひとある程ほどう園郷えんきやう保い本ほん勤きん義ぎ中ちゆう足あ煙えん（わう）つれあひ年とし勤きんるが
 皇こう（は）のいも満みふけとむるの祖そに里しむうの和わを後あと（へ）て母を
 又また（は）来きりぬ其そのおうい我われ飯いひま米まいの肉にくを姉あねしため最さい又また魚うしほ塩しほ茶ちやは
 中なかつ（は）若わかやでさそくを採と（は）来きり喪なくさ供く（う）り玄けん多たの其その母はははひ
 中なかつ（は）例れいの喪なくされ物ものつろく携たづな（き）さうて母を舐くは抱かか（る）るが母は病やまひ
 中なかつ（は）中なかつと多おほき金かね園村えんむらとるなり妹いものあたる孤ひとり呼よ（ぶ）せと我われ牙は
 中なかつ（は）中なかつ自みづか由よしふささき中なかつ（は）汝なんどくんびやう看かん病びやうして中なかつ（は）少すくもあつとくはるのな

是も若衆とてせむ我大に汝を恨みおどひふと成やふ頼む
 由りあるが其隣にうれ若も里いに母のうへ向かふとて
 其後又人ありあり母の病を大に憂ふも清女を誘ひ
 其の歩ゆきを背負て上寺にゆり例の如く隣にうれ若
 み母のうを頼み母の病に憂ふふ日用に憂ふに任せておく
 らせ給ふとてゆりぬ人清女に向ひて告ぐる汝母はつる
 篤きみとて汝を早くにぬ是等の後年老ておど
 る者あり母の末をとおひたり妻とも娶つてあるお業をも
 したぐづれせようといふ清女は母の屋敷ひきとて
 ちと結うたふとてお母のうに憂ふといふは母の



ちやうどさういふやうにさきさきの後の事いふやうにさう
 けいけいさうさうさうの病清々来りし時里いを憐れて清々母
 の居る所其様紙帳も母一人のやうでい履らまゝ我れけりこ
 り紙帳いひきききききききききききききききききききききき
 けりさういふやうにさきさきの後の事いふやうにさう
 けいけいさうさうさうの病清々来りし時里いを憐れて清々母
 の居る所其様紙帳も母一人のやうでい履らまゝ我れけりこ
 り紙帳いひきききききききききききききききききききききき
 けりさういふやうにさきさきの後の事いふやうにさう
 けいけいさうさうさうの病清々来りし時里いを憐れて清々母
 の居る所其様紙帳も母一人のやうでい履らまゝ我れけりこ
 り紙帳いひきききききききききききききききききききききき

令してとく好むゆへにぬるといふ清女はあうらなれて
 た横の言ひよりいふにきき事となく侍らといひ也母七十
 三清女に十にありぬ敷十年をきき孝行あるより一婦とい
 感ふ郡吏も達し
 曹源云
 貞亨元年二月廿八日二十苞の金米揚つて賞し給ふ

(二) 赤坂郡津津里村庄治布八金清

赤坂郡津津里村庄治布八金清とて兄弟とて守て友宅なる
 者あり兄七十又歳弟十九歳庄治布妻子嫁孫も七あり
 弟妻子嫁孫も十人として十七人一家ありあかぬとて老み
 抑ふまで年々くくはぬ居るお肉むらどく朝夕の梳

衣服までも毎日で洗い洗う類あるとあり袖の裏田の衣
 五百疋ものありが一家一袴のどくおのふや今へ田畠二
 町ふた五耕地ある多貢もよく上納するうけ兄弟一族多く
 和らるる皆人感ふ郡吏も達し
 曹源云 國石金米
 十二張兄弟若く揚つて称しとせ給ふ

(三) 磐梨郡沖村庄五希女

磐梨郡沖村庄五希女とて若かり女子三男子二あり長女を
 既へ人嫁しぬ其後此十三に年以希女と五希女妻配しぬ中
 女一人嫁とてきなりぬぬとて希女と人嫁せしむと
 うち中女といふ妹と幼き弟二人ありを此へといへん

かくは彼が長とあると嫁しけむとて終る
 り妹も漸く人好むに成りて妹も人好むに成りて其後
 此三多以前より死して中女と才二人ありてともくみ
 耕作をせしめあり彼中女今多三十に成りて其の終りて
 与兄弟といひ二十三歳ありて其の終りて十六ありて中女彼
 妻を娶らせし後其の片附とてとてありて其の終りて
 厚く多多たるまでありて終りて其の終りてありて
 及びむの二里の若し其の感ありて貞享元年八月十六日
 曹源と徳と達と一合米湯を賞しとせ給なり

四 徳中溝に村あり兄弟を清婦

徳中溝に村あり兄弟の氏五兄弟を清が好むなりなり也
 又九年己未に死し其の時彼婦二十歳なり兄弟を清十八歳に
 母は多以前に死し其の里に伯父ありて彼婦を人好むに成りて
 兄弟をとりていふも婦もよく兄弟を清くし其の終りて
 の事ありて今もいふもく耕作して妻を娶らせ其の終りて
 何れもありて兄弟とてともく耕作をせしめ親よりけ
 来る田畠二反ありありて能くして多貢もくするなり
 身をたてる志ありて今年廿八歳なり其の終りて人好むに成
 る一里も其を感しとていふも賞せしめ米二石をいふ人
 給ひぬ

五 兎郡田井村治希右衛門

兎郡田井村治希右衛門と云ふ民二十六歳に孫ありと云
 者の喪子ありが喪年十六歳に孫ありと云ふ治希右衛門の妻
 と悦み毎う其後をゆい弟と云ふ女抱ふくぬに金銀物の
 食物衣類等にあつと云ふ弟ありありと云ふ一村の若とも其
 孝を称しぬるを 曹源云國石貞享五年二月に金米十石
 と給りて其孝徳をいふ一と云ふ

六 日那浦田村八女が妻

日那浦田村の八女が妻舅姑みまふ孝ありと云ふ家元より貢一
 布と其力を盡して舅姑の孝のまのたけいふと云ふ



そ一ト本おどろきてうおてゆり耕作のゆへ八女とせしに
無類そと勢八女をとりてあつる事ふじむ此なりと年
い多責滞くうげの困窮もまぬきあり其村の若いよう
及び此の里中あり其勸めを見まひてよく努めてあつる
ありべ里い他奉約ふとほむ感にて 曹源これ聞み達し
多きは米十苞をいへるを称賛ありあり

(七) 御野郡上佐藤村平左門足利三人

御野郡上佐藤村の民市たつ子三人あり長子と平左門といひ
次男と七左門といふ末と平八あり又田畠三所九反五畝と持る
が平左門一町二反の地をまうらひへる多し多し多しに別め

おれ持せし所一反の地を次男みまうらひへる多し十九年己未に
是もおれ持せし所三町二反又畝二反の何とおれもみまうらひ
是に年以承いへる多し又足利三人あり長子と平左門といひ
はとらる多し貢其里に言あつるげあり娘は足利三人の
中一牛二正持る多しいづこの牛も家おどしてはくひぬ今も
あつて一正どおる多し是も承のどくおどして耕作と苗
代めといひとらふて二人の中お合せる方より稲種をまき
御もまの沙汰とる事なり耕作とく甲乙あるやうにと
叔貢さげぬといふ三人お合うおようそ皆海し其に引算利
ふとらる多しといふ一各別みおをとりとらふも其材とばほ

ある日也老母ははる皆孝あり母えう位なり一おのこは
る平八が家におりぬけくも味なれた物はまじ其家へ振らぬ五月十
日も母の公次男に三人方づきぬけくも是は書いけう三人の
おと孝公のちから三人の娘孫をせむ書きてさうふしめく孝
なぬけの里やせむ感あるなり 公次男（公次男）三人
白浪下し給うて其孝情を賞しむ給ふ貞享三年閏三月
十七日の事なり

八 日那福徳村多志清

日那福徳村多志清とある者ありて平井村の者ありしが七歳の時
福徳の長志清とある者と十歳の時より其里に人におもひてある

十歳までにはうまより後い合の給米とあるなり 志清又
に母を助けるとある父も田畠をたづね給うて勞り奉へん
て父も病み臥しあるも志清主人の仕えよう務て少のいふ
おもひ来りてある父の勞つてのいふ志清も主人に感
ずるをいふある志清も今の浪主とある一志清志清に向いてい
あるは初より三十に及ぶ人仕は多き多きたけにぬ
其のいふ病中の間主人の仕えよう看病行ふ給ふ食
物いふよく個に其孝情給うていふなりはとてを合
せ給て給ふなり其後志清母をある又一志清孝子之田地
宅地あるも志清の外より少の志清とある母をあるとありを清

曹源云とて聽きこみ入いる白銀しろぎんを湯たま

母に事^つへる孝あり知^しる愛あり
のど^{なご}と^{とも}はざると^{いふ}ていつたり
と^さ同く調^{しらべ}へどもあらず其^{その}
寝^よと暖^{あたたか}める方^{あた}み母と寝^ふめ
用^{もち}ひあり富都^{ふと}外^{ほか}に出^でるとた
えきみ其^{その}よりと若^{わか}く女^をの気^き
其^{その}や女^をにまゝ愛^{あい}其^{その}間の^{あひだ}

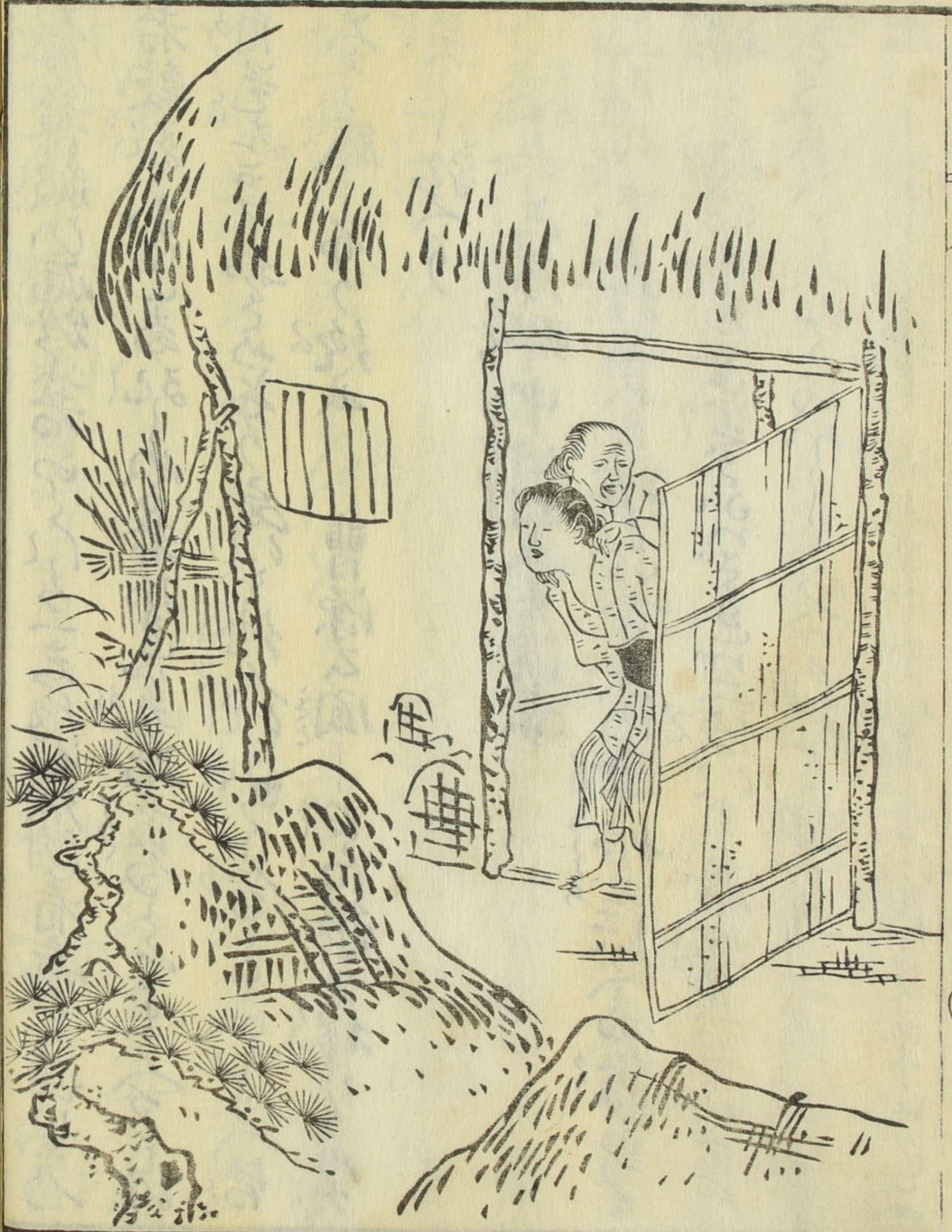


といふ事老てふもふも一ひ孫云清家にて中あひぬ
爲云牛にわまり十二歳の其る幼歩も不自由なれば孫云清
妻と仲み大い後までよくつらひありあつた時孫云清めふ云々
を年々一々爲事を忠告ひぬるや笑止りあふ程み我等がみ
て忠告べしとて孫云清はては親を忠告ひぬるとはどきどき
侍もいふしと役女もいひぬるといふ父母浪りふくほひたり
孫云清兄弟あつたなりとつらふく其産業あつたなりとつら
やうにお助けあり孫云清が家の内和順して終めけりとの
をいふと孫云清今より儉をもちしと貴あるのをせと親
族の者もいふ親母あつたなりとのいふは孫云清はては忠告ひぬるといふ
實

志記若い般い痛は若あつたなりと志記若い般い痛は若あつたなり
若親親あつたなりと志記若い般い痛は若あつたなり
自ををとりあつたなりと志記若い般い痛は若あつたなり
大い感あり終み 曹源云聞一石白狼を賜り賞
員一終り

十一 上乃郡中田村五云清妻

上乃郡中田村五云清といふ氏の妻姑みはるる孝あり
姑も病者ありあつたなりと志記若い般い痛は若あつたなり
一隣ふとゆうはがしと志記若い般い痛は若あつたなり
ぬかぐれと志記若い般い痛は若あつたなり



此へもあきやうに二里の若者う威ド既う

曹源云れ徳み達し多むる銀し湯と賞し強り

士一 同郡久保村太布云清

同郡久保村太布云清とうふ若其村の仁なるとうふ若に仕
一があらまやうみ勢め多む其功を仁なるも感多ふ
り所幸と太布云清み田畠又ふ家所譲と仁なるハ二十
に多前にそくありぬ仁なる配て後其妻み仕ある事
まめやうに多むる敬ひ深く仕たり是も十六年前に抄りて
年月そくむねと今み主人の居あると座の憚りて座
るは形多そくも其の敬ひを忘るゝ其座にふ居る

天皇と其を思ふる者著く其村中の人々其採を感
終る 曹源云のるはみ達し白銀を賜りて賞した

まふ

三 赤坂郡出屋村九女

赤坂郡出屋村九女とる民あり其孫ありといひ其加
ふふ不幸に牛死し求むと死し九女正すて死し其
はた田に賣く何と畠とるに反るるにありて其孫
は九女を園山の土家に出し一多に石を六斗の給米に
はたあり九女まやふ勸まふ今多を十二多にありぬ
く其給米少しは給米の方へ給るものなり已に給米の

中より給し金ふの隙あり其孫ありといひ其加
けり其時分加ふ清る見えくはらう給米又ありて
はた見えくはらう給米と九女をばて加ふ給米はふ我
給米よりあるは給米の賣ひしに只其やうにくと
名だある給米と其賣ひのむくはく給米とあり
く給米ありありまふはらうまやふとありてまてま
人々孫憐れとる也二里の若其考ふ孫感しぬと
曹源云園石給ひ白銀をばて賞し給り

十四 仁保村市布

仁保村市布とる者あり其考ふ孫感しぬと



おもひは市布ちの今多に十九歳にあり子三人あり次
 女は十一歳にあり子二人あり末の男新太郎と云ふ子二人をとりて
 十八年希う死しぬ其存生の中は次希を養ひ別家さんと
 てあると仰り置ぬまは市布ちの男に毫の厚もなき次希
 ちと別家にて居るまはしうに只一人にありて耕地を務む
 ざしとて兄弟三人おんまことといひ合せて睦まどくし三
 の妻も何くもわづらひくづくありぬる其里人
 も感あり 曹源云白銀を給ひ其な毫と賞せしなり
 五 月 村市女妻
 月村市女と云ふもの妻買姑よく来て孝行にいまう

いて耕作と勤けり男姑も七十ぬよりけり姑は病老
 病老よりいふ般起りぬりごころを在る疾いなるふく
 勞り仕給ふ食物湯茶ふにあらざるを食ひてとらる
 市女元よりお負くしてを多し田地をも賣いよく困窮
 しちよ妻を娶つて二多の中り人々奴めぬ妻の家
 居くまぬり根菜を年おといふに及ぶと山の下草をも
 ろも来り疾いなるやうく働さう勢もなまぬてまゝ宿入
 せ賣る一田畠もうけるを多事負ふといふ里にうちちや
 捧けり人皆感ぜどもとるは洗り
 曹源云々園に達せ
 一う白根を揚り其功を篤く賞し給へり

十六 磐梨郡的井村七右衛門の義妻

磐梨郡的井村七右衛門とある民夫婦もいふを考ふる者あり
 とはいはるる事いひるに和村の新たの方より二十五年以
 前の信根の拂沙りあるを何卒して拂度ありと
 ころ七右衛門の義妻の方より右左をいひて叔いふとの
 事いふや右帳見て給ふといふ新たの方を娶て我々さる事
 ありといふも七右衛門のいふる事いふと右帳は彼を考へ
 ぬえかして根六拾ふありといふ七右衛門の利是をせぬ
 へ行ともぬさる事いふを排せり船の便ありとて
 的井村へ船をせぬといふ其後船をよせぬとて米二石つゝぬ



をいふ事新左衛門も大に感^あずけて翌日酒など携^もつて七右衛門
之^をれめ^しり也^も老父^{らうふ}十とせ^しけ^しる^も幼^こ少^{せう}も^もけ^しひ^きご^もま^ま七右衛門の妻^{つま}
と^いひ^ひる^も小使^{せうし}まで自^{みづか}ら^らう^うを^をを^を抱^かけ^けり^り老父^{らうふ}物^{もの}懼^{おそ}
あり^{あり}夜^よも^もと^とぐ^ぐ燈^{とう}を^をう^うげ^げ七右衛門の妻^{つま}と^とい^いひ^ひ其^{その}例^{れい}み^みけ^けぬ
老父^{らうふ}も^も物^{もの}語^ごりを^を好^{この}む^むも^も耕^{かう}作^{さく}の^のふ^ふど^ど毎^{まい}夜^よ飲^のみ^みて
ふ^ふぐ^ぐま^ま夜^よに^に二^に度^どづ^づの^の好^{この}む^むる^る食^{しょく}物^{ぶつ}を^を酒^{さけ}と^と酒^{さけ}と^と好^{この}
む^むる^るを^を酒^{さけ}と^と酒^{さけ}と^と好^{この}む^むる^るを^を酒^{さけ}と^と酒^{さけ}と^と好^{この}む^むる^るを^を酒^{さけ}と^と酒^{さけ}と^と好^{この}
三^{さん}手^て己^{おのれ}の^の酒^{さけ}を^を飲^のむ^むる^るに^にい^いふ^ふ其^{その}力^{ちから}より^{より}あ^ある^るを^を悲^{かな}
し^しこ^こ入^いり^り老父^{らうふ}の^の志^し深^{ふか}し^し父^{ちち}と^と次^{つぎ}子^こみ^みる^る短^{たん}く^くあり^{あり}童^{どう}の^のを^を
乃^{すなは}ち^ちく^くい^いひ^ひく^くの^の志^し深^{ふか}し^し父^{ちち}と^と次^{つぎ}子^こみ^みる^る短^{たん}く^くあり^{あり}童^{どう}の^のを^を

其志をひく其をみこころは或も老父七ちの抱ふ
ふんとて七ちのいざな妻とて肩腰をさとりふし
あり七ちの耕作み出て居しと父呼とて行のり打捨て
ゆり用のとぬりぬいふる急用ありて七ちの例は
さびかばしとて例みわりぬ父七ちのををえて居あり
のましとて父し一食せざる付七ちのし食せざる食を
とて七ちのし食を其凍しきおふも蚤おどのきおに
て夢の臺ををるゑ其より寝しめをたき火をく火
燵をしてしとて其寝るおみこころに板ををりて
其より寝しめ其例み大床ををるゑ暖おしむ七ちの

夫婦し七旬に及ぶ方のいづれも老ぬる齡のいづれも父の事
る事あるに去年九月十五日父年九十三に天年を終り
し七ちの夫婦も其悲しとて今とて泣くし
とありし其鳥と老の國をる若は感せどとありぬ
曹源云委く國を感せしとある白銀下し終りぬ

十七 日那市場村庄ちの

日那市場村庄ちのとある若あり田畠八反あり耕し
酒のふも少し造りて家族も八ありとて人あり鳥家
にふれをふく家内も和順し一族の及ぶと他人にむ
くく老母齡七十八ありとて是は足尾村の源たの

へにむろく兄の家へるをくしも毎日勤著んて孝終
 るを孝り兄貢くありて借金多く後家も貨物に入て
 云ふ方より潰ぬるう及び多付店たつが終へ根に貫目バ
 るものありしが其中三貫目出ぬ兄が借銀拂せざる其時
 一族の若ふと云ある商の元へにまがにありて續難うと
 とうり店たつ兄父のいと熱心ゆふまに其本家と
 潰とに思ひど我多方よと云いぬにありてうりて店堂
 にも兄難ふぬお村を賣て足次ぬべと云其外親類
 の中にも少いづれ足次ぬるう取村の云々清と云者とけ己若
 奴僕に己身はひり其後の常小ゆりて耕ぬるふ店たつ

